

窪尼御前御返事

弘安四年一二月二七日 六〇歳

品^品のものをくり給^たびて候。

善根と申すは大なるによらず、又ちいさきにもよらず、国により、人により、時により、やうやうにかわりて候。譬へばくそをほしてつきくだき、ふるいて、せんだんの木につくり、又、女人・天女・仏につくりまいらせて候へども、火をつけてやき候へばべちの香なし。くそくさし。そのやうに、ものをころし、ぬすみをして、そのはつを^{初穂}をとりて、功德善根をして候へども、かへりて悪となる。須達^{すだつちようじゃ}長者と申せし人は月氏^{がっし}第一の長者、ぎをん精舎をつくりて、仏を入れまいらせたりしかども、彼の寺焼けてあとなし。この長者もといををころしてあきなへて長者となりしゆへに、この寺つみに^失うせにき。今の人々の善根も又かくのごとし。大なるやうなれども、あるいはいくさをして所領を給^給び、或はゆへなく民をわづらはして、たから^財をまうけて善根をなす。此等は大なる仏事とみゆれども、仏にもならざる上、其の人々^跡あともなくなる事なり。又、人をもわづらはさず、我が心もなをしく、我とはげみて善根をして候も、仏にならぬ事もあり。いはく、よきたねを^悪あしき田にうえぬれば、たねだにもなき上、かへりて損となる。まことの心なれども、供養せらるゝ人だにもあしければ功德とならず、かへりて悪道におつる事候。此は日蓮を御くやうは候はず、法華經の御くやうなれば、釈迦仏・多宝仏・十方の諸仏に此の功德はまかせまいらせ候。

抑今年^古の事は申しふりて候上、当時^歳はとしのさむき事、生まれて已来^{このかた}いまだおぼへ候はず。ゆきなんどのふりつもりて候事おびたゞし。心ざしある人もとぶらひがたし。御をとづれをぼろげの御心ざしにあらざるか。恐々謹言。

十二月二十七日

日 蓮 花 押

くぼの尼御前御返事